

調査研究費（市民連合）出張報告書

平成 30年11月6日

氏名 菅原 明 山下 隆夫 濱岡 歳生 酒本 哲也	視察項目 南魚沼版 CCRC 構想について 美女旅と女子力観光プロモーションチームについて
期間 平成30年10月10日から 平成30年10月10日まで	視察先 新潟県南魚沼市

視察概要

説明者

総務部	U&Iときめき課	専門員	清水 明
産業振興部	商工観光課	課長	腰腰 勝利
産業振興部	商工観光課	主任	大野 善幸
		主事	上村 万里

検討・考察

推進体制としては、第三者機関として構想の事業計画の作成・推進を担う CCRC 推進協議会を中心に、事業推進を図ることとしている。真っ先に取り入れてやるくらいのモデル地区の提案や交渉をすべきである。医療・介護の連携、教育の問題など、CCRC 的思想は非常に重要であり、100%の CCRC でなくても、CCRC 的な思想で移住・推進を図っていくという考え方は必要である。CCRC に取り組むべきかどうかは、早い時期に方向性を見出して行くべきである。小さな経済が動くような仕組みづくりを模索して、市として身の丈に合った事業展開をもっと前向きに取り組んでもらいたい。今後の取り組みとしては、産官学金労言（産業界、官公庁、大学、金融機関、労働団体、言論界）による推進会議での検討を期待する。

次に南魚沼市女子力観光プロモーションチームについては女性ならではの愛デアっを取り入れ、感覚を生かすことで観光資源に新たな価値や魅力を生み出すことができ「女性に人気のある観光地づくり」として女性観光客が増加し、それに伴い全体の観光客の増加につながっているように見えた。下関市でも十分参考にできる手法だと思った、長府を中心に女子力を発揮してもらえる仕掛けを提案できればと思った。

市民連合の市外視察に係る調査事項

調査事項①「南魚沼版 CCRC 構想」について

全国的に人口が減少するなか、各自治体では子育て支援や UI ターン者への PR など、人口増加に向けた様々な取り組みが続けられています。政府も 2014 年 12 月に閣議決定した「まち・ひと・しごと総合戦略」において、東京一極集中を是正して地方への新しいひとの流れを作るとして、移住希望者を支援したり日本版 CCRC の取り組みを検討することなどを表明しました。

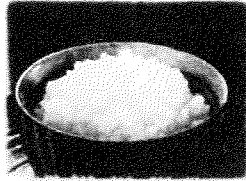
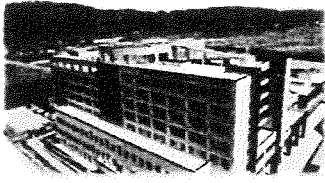
CCRC（注）とは米国で生まれたシニア向けのコミュニティです。都市部などの元気なシニアに自然豊かな地方に移り住んでもらい、CCRC 運営組織が企画する教養、娯楽、スポーツなどの様々なプログラムに参加しながら充実したセカンドライフを楽しんでもらう仕組みです。

医療や介護など社会保障のシステムに違いはありますが、日本においてもこのような仕組みにより地方生活を望む元気なシニアに移住を勧め、その地域の豊かな自然や文化に触れながら充実した生活を楽しんでいただく。あわせて社会活動などで地域の方々と積極的に共働してもらえればその地域の活性化も図れるのではないかと検討が進められました。

南魚沼市、早くから産学官連携で CCRC の研究に取り組む

南魚沼版CCRC構想

カレッジリンク・新設移住型



地域特性：田園地域型
地域的広がり：エリア型
住み替えパターン：大都市移住型



2018.10 新潟県南魚沼市

1

CCRC プラチナタウン と地方創生 生涯活躍のまちづくり 住まう喜びを感じるまち南魚沼

CCRC(プラチナタウン)とは？

- ・Continuing Care Retirement Community の略称
- ・日本語に訳すと「継続的なケア(介護・医療)を提供する高齢者向けコミュニティ」
- ・CCRCの先進地、アメリカでは1970年代から登場し、現在は約2千カ所所で約75万人が暮らす (CCRCは楡周平氏の小説から「プラチナタウン」とも日本では呼ばれる。)
- ・中高年齢者が元気なうちに移住し、介護や医療を含め、健康状態に合わせて最適なサービスを受けながら、人生最期の時までを過ごせる生活共同体

※ 国民性や社会保障をはじめとする諸制度の違いから、
日本での普及には十分な検討のうえで、独自の形としていくことが不可欠

地方での地域活性化に向けて...

Retirement ⇒ 南魚沼市では **Recreative**

人口減少高齢化対策として2014年12月27日に出された「まち・ひと・しごと創生」において、地方への新しい人の流れを創る施策として日本版CCRCの検討が進む

高齢者のニーズが健康だけではなく、知的欲求の充足や消費行動にも広がっていることから、地方創生政策の中で地域活性化につながるよう、「生涯活躍のまちづくり」として地域資源を最大限に活用して、様々なサービスと提携したCCRCが理想

2

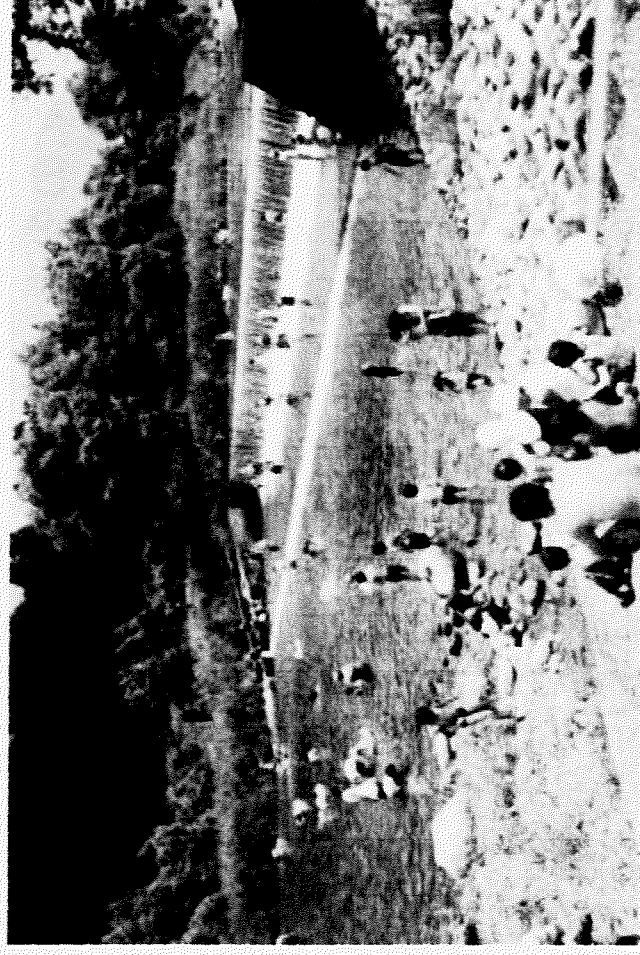
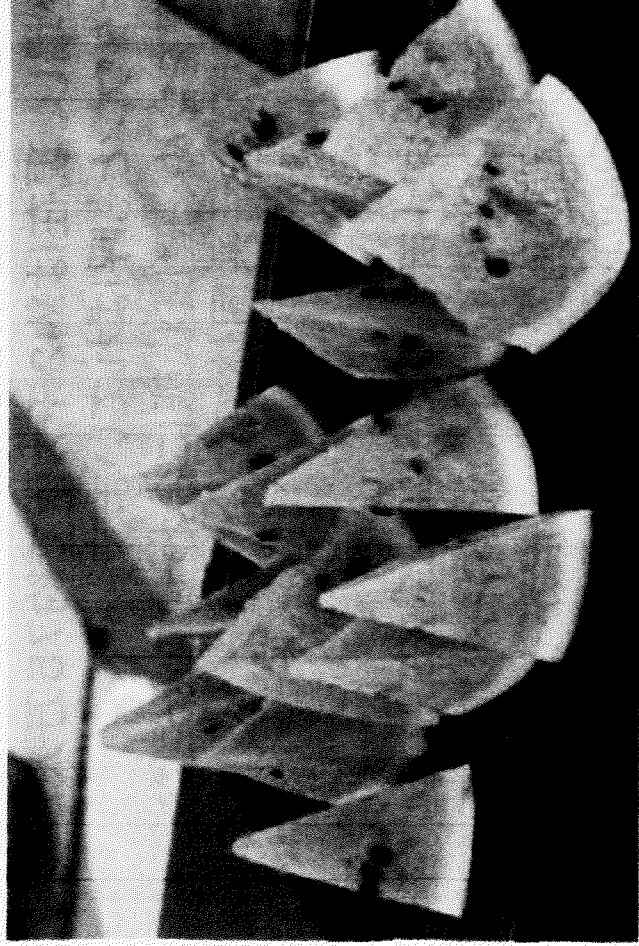
南魚沼版CCRC構想

カレッジリンク・新設移住型

地域特性：田園地域型

地域的広がり：エリア型

住み替えパターン：大都市移住型



2016.8 新潟県南魚沼市

プロモーション

15000 x 12

南魚沼市女子力観光プロモーションチームについて

実施背景・経緯

南魚沼市では、NHK大河ドラマの舞台になった平成21年に観光客が大幅に増加し、これを契機として継続的な誘客が課題となった。観光の際の行き先や目的などの決定は女性主導であることが多い。そこで、女性の視点から南魚沼市の観光を考え、イベント企画・立案や観光関連事業などについて提案を行い、魅力的な観光環境を整え、女性を中心とした誘客促進はもとより持続的な観光振興を図ることを目的とし、一般公募によりメンバーを集め平成22年11月に結成された。

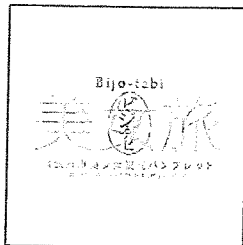
観光交流活性化の基礎となる『おもてなし』の地の確立に向けたスキルアップと情報の共有・発信を行いながら女性の力をさらに発展させ、農・商工、観光などの業種を越えた異業種連携を推進している。

また、女性ならではのアイデアを取り入れ、感覚を生かすことで観光資源に新たな価値や魅力を生み出すことができ、「女性に人気のある観光地づくり」として女性観光客が増加し、それに伴い全体の観光客の増加をねらいとしている。

主な活動状況

H22.11.10	結団式、第1回会議	
H23.1.8	市内観光地（施設）研修会	市内観光施設見学
H23.2.24	第1回市長提言	道の駅のトイレについて
H23.3.3	HP 公開	
H23.3.5	市内観光地（施設）研修会	越後上布体験講座
H23.3.15	第2回市長提言	震災支援活動について
H23.3.19	市内観光地（施設）研修会	酒蔵見学
H23.3.20	震災支援活動開始	
H23.3.22	南魚沼市災害ボランティアネットワーク加入	
H23.5.15	日本酒の会	八海山に合うメニュー開発
H23.5.29	日本酒の会	鶴齢に合うメニュー開発
H23.7.1	市内観光地（施設）研修会	伝世館見学
H23.8.20	市内観光地（施設）研修会	八海山登山
H23.8.22	新メンバー任命式、第11回会議	
H23.9.9	第3回市長提言	伝世館について
H23.9.17	日本酒に合うメニュー商品化	食ing Bar くらにて
H23.9.21	第4回市長提言	八海山・女人堂バイオトイレについて

美女旅[Bijo-tab]について



2018.10.10

下関議会市民連合様 視察資料
新潟県南魚沼市 U&Iときめき課

2/3人

2ヶ月
台湾

制作に至った経緯

南魚沼市では2009年NHK大河ドラマ「天地人」の放映を契機に、観光交流の活性化を推進してきた

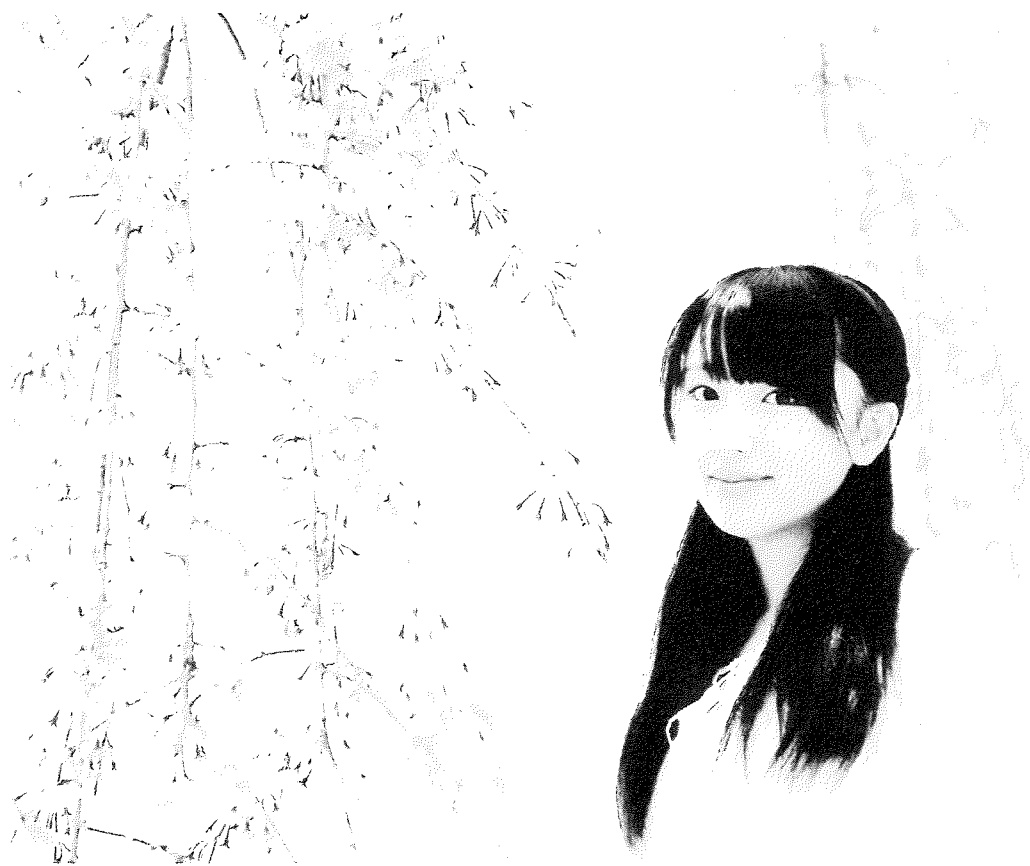
放映年の2009年は「愛・天地人博」
2010年は「戦国EXPO」、「グルメマラソン」
2011年は「戦国武将グランプリ」
2012年はご当地グルメ「きりざい」の普及活動
コンテンツ・ツーリズム推進協議会
女子力観光プロモーションチーム…
地域の若者や女性の組織を中心として展開し、情報発信してきた。

関連事業として兼続地区の魅力を紹介するパンフレットを作成することになった

関連事業として、六日町駅から坂戸山周辺地域を「兼続地区」として兼続伝世館の整備、武将モニュメントの設置、「喜平次・与六の像」（放映記念銅像）、足湯の設置、ミニミュージアム（交流施設）…官民連携で実施
この「兼続地区」内への周遊を促進するため、まち歩きパンフの作成発行を計画し予算化していた。
内容としては、地元の六日町小学校児童による「地域お宝マップ」をもとに、協力作成する予定だったが、同時期に「六日町あるきMAP」を市内若者有志の団体が発行したため、内容（機能）の重複することとなり、代案を模索していた。

パンフレットの作成に当たり、斬新なものを作りたいとの思いがあった

市内で菓子店を営む羽賀謙祐さん（44）ら若手有志が、美少女を中心に据えて観光地が背景に入るビジュアル重視の観光パンフレットの作成を提案。
この提案を受けて、今までにない、新しいタイプのパンフレットで、特に若者層をターゲットとして、この地域への関心を高めることを目指すことに。
しかも、一読で捨てられてしまいがちな従来のパンフからの脱却を目指した。
市が既決予算の活用で業務委託し発行。
企画・制作を提案者の羽賀さんと吉田さんらが担い、ホームページ（最近ではFacebookも）を立ち上げることにより、印刷物以外の情報の発信とその拡散状況の把握（官民の共働体制で実施）



3,10-125.



10.3
10.3.2010

山梨大学 文芸学部 文学部
山梨大学 文芸学部 文学部
山梨大学 文芸学部 文学部